１月２３日、ミクダーダーディ・シリア外務次官（大臣級）は、以下のとおり述べた。
（１）(シリアの外交政策と立場)シリアは、91 年のマドリード和平会議に始まる和平プロセス参加を主導したように、中東において軸となる役割をはたしている。パレスチナ、ゴラン高原、レバノンに対するイスラエルの占領は継続しており、不安定をもたらしている。イスラエルは、2002 年のアラブ側の和平イニシアティヴも拒否した。我々は和平に向けたアラブの統一的な立場を、これまでよりも最も必要としており、それは先般のガザ危機でも証明された。和平をもたらす唯一の方法は、67 年ラインまでのイスラエルの完全な撤退である。
（２）(かつてシリアはイスラエルとの和平を決断したのではなかったか、との問いに対し、)我々は 85%までイスラエルとの協議に合意したが、バラク・イスラエル首相（当時）は和平の署名の直前になってクリントン米大統領に連絡し、拒否を伝えた。爾来、和平交渉は停滞している。
（３）(アラブの分裂）アラブの統一された立場こそが我々の戦略である。しかしながら今回は、一部の国がドーハでの首脳会議に出席せず、人道支援のための国境開放を拒否する等、分裂の様相を呈してしまった。我々はパレスチナ和平、ゴラン返還、すべての占領地からの撤退を経て、アラブ全体とイスラエルの完全な平和をもたらす用意がある。我々は同じ民族であるパレスチナ人を支持しており、イスラエルのガザ地区からの完全撤退および国境再開を求めると同時に、安保理決議 242、338 号に基づく和平を希求している。
（４）(米国における政権交代の評価）米国は国際社会におけるそのイメージを壊してしまった。ブッシュ政権は理性ではなく力による問題の解決を志向したが、それは何ももたらさない。これに対してオバマ大統領は対話と国際社会における米国のイメージ改善を強調し、イスラーム諸国との対話に言及した。我々は、平和的方法での問題解決を志向する限り、疑いなく米国のパートナーとなるであろう。そしてそれは中東の状況を変化させることになろう。バッシャール大統領は今日、オバマ大統領に就任の祝電を打ち、平和的な問題解決の必要性を強調したところである。
（オバマ政権との対話を歓迎するという意味か、との問いに対し、）我々はオバマ政権との対話を歓迎し、平和的な問題解決を目指す。
（５）(米国では、シリアを取り込むことでイランを孤立させ、レバノンを分断する手法を強調する者がいるが、との問いに対し、) 米国は同時にイランとの対話も進めるべきである。問題の解決はイランを孤立させることで解決することはないであろう。
（６）(中東問題におけるシリアの役割）シリアが重要な役割を果たすべきであることは疑いない。イラク戦争の際に安保理にいたシリアは米国に攻撃をしないようアドバイスした。いずれかの勢力に偏ることない仲介の結果、パレスチナ諸勢力間の仲介にも成功をおさめたことがある。ガザ攻撃については、イスラエルに軍事攻撃が何ももたらさないこと、人道的措置のために国境を開くことをアドバイスしたが、イスラエルは耳を傾けなかった。
（７）(イスラエルとの和平）占領の継続こそが問題であるが、すでに指摘したとおり、我々

は安保理決議 242、338 号及びマドリード会議の関連条項に基づくイスラエルとの和平に85%まで合意した。トルコによるイスラエルとの和平イニシアティヴも継続しており、ゴラン高原からの撤退を保証するものであれば、和平を受け入れることは可能である。
（８）（米国による制裁の行方）オバマ政権はブッシュ政権の制裁を用いる政策を改めるべきである。制裁は普通の人々を傷つけるのみである。ガザ地区に対する封鎖も同様であり、すべての関係勢力との対話を進め、関与と責任の政策を進めるべきである。